

ひとのちから

CLOSE UP



荒尾市消防団団長

菊川和清さん

きくかわ・かずきよ 昭和21年生まれ、蔵満在住。平成22年には藍綬褒章を受章しました。荒尾市陸上連盟に長年加盟していて、時間ができたときは、体力作りのために走ることもあるそうです。

1月13日、あらおシティモールで行われた出初式で、勇壮な姿を見せた荒尾市消防団。総勢548人の消防団員を率いているのが、団長の菊川和清さんです。

「消防団には、消防署より長い歴史があるんですよ」

菊川さんはまず、興味深い話をしてくれました。

「実は消防団というのは、江戸時代の『火消し』が元になって生まれた地域のボランティア組織なんです」

ことしは消防団が誕生してから120周年、消防署などの自治体消防は65周年を迎えるそうです。消防団の長い歴史は、住民が自分たちのまちを守るために自ら活動してきた歴史そのものです。

菊川さんは消防団員歴40年目。長年、何もないとくも訓練を重ね、火災などが起これば出動しました。火災や行方不明者の捜索なども多数経験し、気が抜けない毎日です。

しかし、「お礼や励ましを言われると、活動に対する期待の大きさを感じます。普段の活動は見えにくいし、大変

なこともあります。人の役に立てることは誇らしいです」と話します。

地道な活動で地域防災を支えている消防団は頼もしい存在ですが、最近は団員数が減りつつあるそうです。

「昔は定員に空きが出るのを待つ程入団者が多かったんです。若い人にぜひ入団してもらいたいですね」

東日本大震災をきっかけに地域に自主防災組織が増え、住民の防災意識の高まりを感じている菊川さんですが、消防団こそ地域防災を支える要だと話します。消防署と連携し、秩序ある活動をする消防団は、日頃の訓練を通じて地域の人材と絆を育てていきます。だからこそ、地域のために力を発揮できます。

「『熊本に荒尾あり』と言われる消防団にしていきたいですね」消防団の将来像を語る菊川さん。歴史とともに引き継がれているのは、愛する地域を守ることに誇りです。より住民の役に立つ消防団を目指して、菊川さんは誇りを胸に法被をまといまいます。